

平成 27 年度 事業 報告 書

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

平成 27 年 3 月に 3 名、平成 28 年 3 月に 1 名の新規利用者を迎え、ウイズの定員・現員とも 40 名となり、その内訳は、下記のとおりで、男性利用者 22 名、女性利用者 18 名の利用状況でした。

その結果、前年度より 803 名増の利用延べ人員は、9,026 名になり、稼働率 85%となりました。今年度は、下関市障害福祉サービス事業所の虐待事件があり、同種事業を運営しているウイズにおきましても、この事件を検証し、虐待根絶に向けた組織、人材育成の取組を図るため、「虐待防止・権利擁護研修」を受講させ、更なる利用者の権利擁護を図りました。

また、「苦情対応研修」「発達支援・家族支援研修」等外部研修に積極的に職員を参加させ、ウイズ施設内での伝達研修を実施し、基礎的知識の向上を図りました。さらに、外部より講師を招き、利用者支援における個別支援計画の役割・内容・必要性の再確認をし、また、利用者が短期入所事業を利用している施設の見学を実施するなど支援の質の向上を図りました。

1. 利用者定員

〈内訳〉生活介護事業 定員・現員 14 名、就労継続支援 B 型事業 定員・現員 26 名 計 40 名

2. 職員定数

19 名(実質 18 名)

《内訳》

職 名	人数	生活介護	就労継続支援 B 型
施設長(管理者)	1 名	高尾 哲治 (常 勤 兼 務)	
事 務 長	1 名	岩 渕 拓 也 (常 勤)	
事務長補佐	1 名	江 上 祥 弘 (常 勤 兼 務)	
事 務 員	2 名	山 東 晴 子 (常 勤) 里 村 薫 (非 常 勤)	
サービス管理責任者	1 名	宮 西 英 樹 (常 勤 兼 務)	
生活支援員	3 名	角 下 誠 (常 勤 専 従) 溝 渕 彩 美 (常 勤 専 従)	坂 部 恭 子 (常 勤 専 従)
職業指導員	4 名		江 上 祥 弘 (常 勤 兼 務) 山 下 か や の (非 常 勤 専 従) 相 坂 勲 (非 常 勤 専 従) 中 田 里 美 (非 常 勤 専 従)
目標工賃達成指導員	1 名		伊 東 昇 平 (常 勤 専 従)
看 護 師	2 名	佐 藤 紀 子 (非 常 勤 専 従) 島 順 子 (非 常 勤 専 従)	
送 迎 職 員	3 名	川 口 泰 治 (非 常 勤) 丸 山 和 美 (非 常 勤) 玉 井 道 郎 (非 常 勤)	

3. 事業運営基本計画

利用者一人ひとりの社会的自立を支援する場を提供し、地域の中で共に暮らし、安定した生活を送ることができるようにする。

4. 利用者の処遇・行事

I. 就労継続支援B型事業

(1) 基本方針

利用者の自立を支援し、スポンジの袋詰め作業・縫製作業の中で個人の適性または能力に応じた作業を考慮しつつ、マシンでの縫製作業が出来るよう目指すとともに、そのサービスの提供に努めます。

(2) 作業訓練

縫製関連の作業は、(株)丸昌よりの受託、ブラシ袋詰作業は亀井商店よりの受託で、利用者個人の適性または能力に応じた作業を指導しています。また、縫製班に於いては、(株)ヤマガタよりのパジャマたたみ、ズボン糸切り作業に取り組んでおり、今年度の平均工賃は、月額8,878円となっています。

今年度は、12月4日開催の和歌山市授産品販売において、お米の販売・アロマキャンドル・トートバックを販売し、合計42,300円を売上しました。

II. 生活介護事業

(1) 基本方針

日常生活上の支援を中心に、午前中は作業訓練、午後からは散歩、生活技能訓練、スノーブレン等の活動を行い、夏祭りや竈山神社清掃などを通じ地域に根ざした生活を送れるようサービスの提供に努めています。

(2) 音楽療法

「音楽を通じ、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上を図ることを目的とする」音楽療法（グループアスター）を2か月毎に取り入れ、利用者からは好評を得ています。

III. 利用者の問題行動に関する事項

事業活動報告において報告がありましたが、利用者の方の「思い」が実現する関係を構築できるように、問題行動を少しでも軽減し、利用者が成長できる支援をめざしています。

(問題行動の軽減例)

- ・ストレスでイライラする利用者がおられ、トイレにこもる方、トイレでペーパーを多く使用し配管をつまらせる問題行動が、家庭との連携、外出、スノーブレン、絵カードを使った支援で、精神的に安定した利用者が少しずつ多くなり、トイレにこもる回数・時間が少なくなり、配管をつまらせることが少なくなった。
- ・自傷行為で目をつく行為が見られたが、家庭での注意の仕方とウイズでの注意を共有実施しており、少しずつ自傷行為が減っております。
- ・ハンカチを2階フロアより1階のフロアに落とす注目行動利用者がいましたが、職員の注意、見守りにより注目問題行動は少なくなってきました。

IV. その他の活動

(1) 田植え

理事長所有の田と川口理事所有の田の稲作事業をし、6月2日に田植えを行い、その模様はテレビ和歌山で放映され、9月15日には稲刈りをし、10月17日には利用者・ご家族・職員で収穫祭を行いました。

(2) 書道教室

今年度より、創作活動の一環として、文字を書くことで集中力を養い、精神を安定させるため、家族会辻会長に講師をお願いし、6月から月1回開催しました。

(3) 第7回夏祭り

7月25日に地域との交流を目的として第7回夏祭りを開催しました。三田・和田地区の民生委員の方々の模擬店でのボランティア活動、オールディーズの演奏、フラダンス等の催物に加え、盆踊り、バザー等は例年以上の盛況で、一般来場者数も741人となり、前年度より50名程度増え、地元の行事として年々盛大になってきました。

(4) 第5回ウイズ・アート展並びに各種作品展示会

創作活動の一環として、山本実先生にご指導をお願いし、絵画教室で製作した利用者の作品を7月22日～27日の間、紀美野町の八幡工房（来場者数95名）和歌山県民文化会館（来場者数241名）計336名で、作品展示し、第5回ウイズ・アート展を開催しました。

また、和歌山市障害者支援課での作品展示(12月1日～12月28日)、和歌山市市民ギャラリーでの作品展示(12月7日～12月15日)、花山温泉での作品展示(2月11日～3月31日)を通じ、アート展以外にもウイズ絵画活動を認識いただけるように活動の幅を広げております。

(5) 1日レクリエーション

今回の1日レクリエーションは、利用者だけでなくご家族の方とともに、10月9日に淡路ワールドパーク ONOKORO に行き、職員・利用者・ご家族の交流を図りました。

(6) クリスマスチャリティ公演

日産労連主催で心身にハンディキャップをもつ子供たちが夢や希望を育むよう、いつまでも思い出に残る「劇団四季」による舞台を観劇していただくことを目的として開催された公演「人間になりたかった猫」を11月25日に県民文化会館で観劇しました。

(7) ゆうあいスポーツフェスタ

今年度は、和歌山国体の関係で例年11月の開催が12月になり、12月13日和歌山県下の知的障害者のスポーツ振興と関係者の親睦を図るため、ビッグホールで行われた「ゆうあいスポーツフェスタ」に参加し、いろいろな種目で頑張りました。

5. 実習受入れ・施設見学等

- ・ 平成 27 年 7 月 6 日～10 日 就労移行支援事業所 1 名実習
- ・ 平成 27 年 10 月 6 日～8 日 紀北支援学校 3 年生 1 名実習
- ・ 平成 27 年 11 月 9 日～10 日 紀北支援学校 2 年生 1 名実習
- ・ 平成 27 年 11 月 30 日～12 月 1 日 紀北支援学校 2 年生 2 名実習
- ・ 平成 28 年 2 月 18 日～19 日 紀北支援学校 1 年生 2 名実習

6. 消防訓練

- ・ 平成 27 年 5 月 21 日 消防訓練・通報訓練・避難訓練・消火訓練
- ・ 平成 27 年 10 月 21 日 消防訓練・通報訓練・避難訓練・消火訓練

7. 健康診断

- ・ 平成 27 年 4 月 16 日
- ・ 平成 27 年 10 月 1 日

8. レクリエーション

- ・ 平成 27 年 11 月 23 日 紀北支援学校音楽コンサート見学
- ・ 平成 28 年 1 月 20 日 紀北支援学校に於いて作品展見学

9. 余暇活動

- ・ 絵画教室：毎月 1 回 山本先生より指導
- ・ 絵手紙教室：毎月 1 回 相坂先生より指導(平成 27 年度より)
- ・ 書道教室：毎月 1 回 辻先生より指導

10. その他の活動報告

○教育実習（平成 28 年 2 月 15 日～26 日までの 80 時間）

帝塚山大学 現代生活学部こども学科より教育実習生 2 名受入

○ 家族会

(定例会)

- ・ 平成 27 年 6 月 6 日 アンケート結果、夏祭りバザー、ウイズアート展受付等
- ・ 平成 27 年 9 月 5 日 夏祭りの報告、嗜好調査結果、1 日レクリエーション等
(総 会)
- ・ 平成 28 年 3 月 26 日 ウイズよりの活動報告等
(家族会役員会)
- ・ 平成 28 年 3 月 5 日 家族会総会・親睦会の内容について等